

学長 3 期目後半の主な取り組み

(2023年9月2日～2025年9月1日)

●：3 期目前半までに始めた事業

青字：3 期目前半までに行った内容

黒字：【3 期目後半の進展・結果】

(注) 3 期目前半までに完成した事業、継続中だが特記すべきことがない事項は掲載していません。

●：3 期目後半に開始した事業【3 期目後半新規】

黒字で掲載

★：他学ではあまり行われていない、独自のアイデアに基づくユニークな事業や先進的な事業

1. 教育

●★後期入試重視による偏差値の上昇

【3 期目後半の進展・結果】入試判定基準A（ベネッセ・駿台データネット）における定員50人以上の入試区分の集計において、判定基準が2024年度は全国第3位、2025年度は全国第4位となった。

●【3 期目後半新規】前期入試の改革

・一般選抜（前期日程）の選抜方法を令和 6 年度より共通テスト重視・小論文試験の重視を内容とした方法に変更。推薦・後期とそれぞれ異なる入試方式の実施により、多様な人材の入学を促進。

●【3 期目後半新規】「良き医療人」の資質を持った受験生を増加させるための将来を見据えた取組

・地域の小学生を対象に、シミュレータを活用して基本的な医療内容と手技を体験し、医師・看護師の仕事を理解してもらうシミュレーション型児童医療体験「ホスピタルラボ」を令和 6 年度に初めて開催。

●★海外や国内の有名研究機関での学生実習（リサーチクラークシップ）

【3 期目後半の進展・結果】・（実施実績）令和 5 年度：海外8機関、国内20機関、学内37教室 令和 6 年度：海外1機関、国内21機関、学内45教室

・リサクラ後も研究に従事した本学卒業生が、2つの学会の優秀論文賞を受賞。

●★アントレプレナーシップ育成

【3 期目後半の進展・結果】城南信用金庫理事長である川本恭治氏、世界的デザイナーのコシノジュンコ氏に新たにMBT特命教授に就任いただき、長榮周作氏（パナソニック前会長）、中村勝氏（クオールホールディングス会長）、森雅彦氏（DMG森精機社長）、梅岡比俊氏（医療法人梅華会理事長）合わせて6名のMBT特命教授・講師による特別講義を実施

●臨床実習の充実

・文部科学省承認済みの米国式医学教育プログラムであるハワイ医学教育プログラム(HMEP)を導入し、ハワイ（米国）式のClerkship（学生参加型実習）を体験させることを決定し、派遣。

●★英語教育の充実

【3期目後半の進展・結果】英語で行う医学教育の推進

・「英語で学ぶ医学・看護学セミナー」の開催（第9回 2023年9月、第10回 2024年1月、第11回 2024年9月、第12回 2024年11月）

・基礎英語力の育成と、個々の学力・志望に応じた指導を両立させつつ、英語教育の質の更なる向上を図るため英語講座を「基礎医学英語」と「実践臨床英語」の2科に再編。

●医学教育分野別評価の受審

【3期目後半の進展・結果】・2024年1月に評価を受審し、2032年1月末までの認定を得た。

- ・カリキュラム検討委員会や教育評価委員会など、教育の質向上のためのPCDAサイクルを担う体制を整備。
- ・2巡目で受けた指摘事項について、3巡目受審に向けての改善計画を2024年11月の医学教育分野別評価委員会で構築。
- ・形成的評価の促進について、臨床実習に3種類の形成的評価表（臨床実習形成的評価、mini-CEX、360度評価）を導入。

●医学教育モデル・コア・カリキュラムに即した専門教育の実施

【3期目後半の進展・結果】・「医の探求入門」の科目を設置し、情報リテラシーの授業を導入。

・水平・垂直統合を充実させたカリキュラムを令和9年度入学生から実施することを2024年11月の医学教育分野別評価委員会で決定。

●教員・学生との対話の機会を充実

【3期目後半の進展・結果】・キャンパスミーティングを実施し、学生からの要望を受け取り、講義室の机・椅子の更新、コンセント増設など学内設備の充実を図った。また、新キャンパスには自習スペース（ラーニングコモンズ）の確保、学内ネット環境を充実させるなど教育環境の改善に努めた。

●【3期目後半新規】「AIシステム医学融合イノベーションセンター」を設置予定

・AIやデータサイエンスのめざましい進歩に適応した人材を輩出するため、データサイエンスや数理科学の基礎的知識の習得から医療分野への応用、システム開発に至るまでの一貫した教育・研究を実現するため、「AIシステム医学融合イノベーションセンター」を設置することを予定し、2025年度より基礎医学領域に統計・情報学と臨床数学を統合・再編した「数理AI医学講座」と「応用システム医科学講座」を設置。

●看護学教育分野別認証評価の受審

【3期目後半の進展・結果】・外部有識者の教育評価を受け、教育内容の質の向上を図るため、日本看護教育評価機構による看護学教育分野別認証評価を2022年10月に受審し、指摘事項の改善を行い、2025年3月に再評価改善報告書を提出

●【3期目後半新規】看護学研究科博士後期課程の設置

・実践科学としての看護学の深奥を究め、自立して教育・研究を行うことができる高度な能力を有する人材の育成を理念とした看護学研究科博士後期課程が2023年度に文部科学省の設置認可を受け、2024年4月から開設。

・2024年 定員2名、志願者6名、入学者3名 2025年 定員2名、志願者4名、入学者 4名

●【3期目後半新規】「THE日本大学ランキング2025」教育リソース分野で全国第5位にランクイン

・英国の教育専門機関タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）が発表した「THE日本大学ランキング2025」において、本学は分野別指標「教育リソース」において全国第5位にランクイン。

2. 研究

●研究支援体制の強化

【3期目後半の進展・結果】・2020年度に新設した「先端医学研究支援機構」において、URA（リサーチ・アドミニストレーター）、専門技術職員（テクニシャン）、コーディネーターなどの専門人材を段階的に増員し、研究計画の立案支援、外部資金獲得支援、研究機器管理、産学連携の推進など、各段階での支援体制を強化。

●科研費申請支援

【3期目後半の進展・結果】・従前から実施している申請書の添削、研究計画調書の公開、申請スケジュール管理ツールの整備、看護学科向けセミナー、URAによる伴走支援や科研費情報を定期的に発信する「Go for it! KAKEN」ニュースの配信、申請者向けWebページの充実など各種取組を充実。また、外部講師を招いたセミナー開催や、URAの分析に基づく支援策も新たに実施。

・科研費の獲得額が増加。2023年度は、新規と継続を合わせて全国の単科医科大学25大学中、件数で第6位、金額で第9位。単科医科大学のトップは京都府立医科大学で、新規と継続を合わせての採択件数では、2018年に101件の差があったが、2023年には46件差に縮まり、また採択額においては、2012年には2億8000万円、2019年には1億9800万円だったが、2023年には9800万円と大幅に縮まった。10年前は極めて大きな差だったが、特に2019年から急速に差が縮まってきた。

●奈良県と県内市町村が実施する健康増進事業への協力・連携

【3期目後半の進展・結果】・各種委員会や会議への参画、専門的知見からの助言、ロジックモデルの作成支援、最新の知見に基づいた情報提供、研修会等での講演、健康関連事業の相談指導などを継続的に実施。

（年間新規支援組織団体数 2023年度 5件、2024年度 3件、2019年度～2024年度の累計 66件）

●★研究成果の社会還元のため研究者の起業を支援

【3期目後半の進展・結果】・奈良医大発ベンチャー企業の設立（6社→8社）

2024年10月 （株）オキシキャリア、2024年12月 NPO法人MBT奈良画像診断・IVR支援ネットワーク

●【3期目後半新規】研究に関する各種助成事業の創設

・未来への飛躍基金を活用し、2022年度に創設した英語論文校正費用の助成制度を拡充するとともに、新たに海外留学助成制度、APC助成制度を創設。

●【3期目後半新規】研究基盤の整備

・総合研究棟グランドデザイン策定委員会での検討などを踏まえ、高額機器購入予算を従来の2,000万円から4,000万円に倍増し、研究設備の強化を図るとともに、研究環境の安全性と効率性の向上のため、Web審査体制の整備や、化学物質管理システムの導入、動物福祉に配慮したIVCラックの導入などを実施。

●【3期目後半新規】オートファジー・抗老化研究センターの設立

・老化や種々の加齢性疾患抑制の鍵となる細胞内の分解システム「オートファジー」の仕組みを老化や種々の加齢性疾患の治療で実用化するため、基礎・臨床講座との分野横断的な研究体制を構築し、日本の老化研究の永続的な核となることを目的として、オートファジー・抗老化研究センターを2024年4月に設置。

・2024年4月16日に奈良県コンベンションセンターにおいて、2016年にノーベル生理学・医学賞を受賞された大隅良典東京工業大学栄誉教授を招聘して、センター設立記念キックオフシンポジウムを開催。

●【3期目後半新規】基礎医学者の養成

- ・2024年2月に基礎研究医養成基本方針を策定し、将来本学が全国的に基礎医学の分野において指導的な役割を果たす人材を輩出することができるよう、基礎医学者の育成に注力することを決定。
- ・医師免許を取得した後、基礎研究医を目指し、大学院に進む際の支援として「基礎研究医養成修学資金」の貸与を決定。

●【3期目後半新規】ロボット技術活用地域リハビリテーション研究センターの開設（四条キャンパス）

- ・ロボット技術の活用によりリハビリテーション治療の効果向上を目指すともに、医療者・介護者・家族の負担軽減、リハビリテーション資源の格差による「治療機会の不均衡」のシステムの解決につながる研究を行い、地域医療へ貢献することを目的として、社会医療法人平成記念会 平成まほろば病院内に研究センターを2024年4月に設置。
- ・上記研究センター開設により、四条キャンパス、畝傍山キャンパス以外のキャンパスが合計7カ所となった。

●【3期目後半新規】「一般社団法人 奈良先端医工科学連携機構」の設立

- ・新しい技術開発やイノベーション創出のための医学と工学の協働「医工連携」をより推進するため、奈良先端科学技術大学院大学とともに「奈良先端医工科学連携機構」を設立し、2025年3月に文部科学大臣より「大学等連携推進法人」に認定。
- ・2025年5月 NAISTメディクス研究センター・奈良県立医科大学連携ワークショップを開催

●MBT関係は総合欄に記載

3. 診療

●医師臨床研修

- ・【3期目後半の進展・結果】奈良医大マッチング結果：2024年度 100%（51/51名）、2025年度 98.0%（48/49名）
- ・奈良県全体マッチング結果：2024年度 100%（126／126名）全国1位、2025年度 99.17%（120/121名） 全国2位
- ・特色ある取組として2025年度開始プログラムから、選択科目の一環として2024年10月に学術交流協定を締結したサンライズジャパンブノンペン病院での海外研修を開始。

●働き方改革への対応

【3期目後半の進展・結果】・2022年9月に策定した医師労働時間短縮計画を修正するなどの手続きを行い、特定労務管理対象機関（B・C-1水準）として2024年4月から3年間の指定を受けた。

- ・2024年度より追加的健康確保措置として、長時間労働医師に対する面接指導を開始するとともに、面接医に対する手当を創設。

- ・全診療科において、時間外の勤務体制を整理し、18診療科で宿日直許可取得、12診療科で勤務化に移行して夜勤明けに帰宅する体制を構築。

- ・救急科医師の時間外・休日労働の時間短縮を進め、高度救急救命センターの機能を継続的に維持していくため、救急救命士の国家資格保有者を対象に、「ホスピタルパラメディック（病院救急救命士）」の採用を2025年度から実施。

- ・看護師の負担軽減のため、看護職WGにおいて始業前超勤の縮減、一部病棟における障害者雇用へのタスクシフト（ベッドメイク）や夜間看護補助者の導入を実施。

●【3期目後半新規】高度生殖医療センターの設置

・県内を中心に不妊で苦しむ人々に最新の生殖医療を県内クリニックと連携して提供する「高度生殖医療センター」を2023年10月に設置。

・2024年5月11日に奈良県コンベンションセンターにおいてセンター開設記念シンポジウムを開催。

●【3期目後半新規】睡眠医療・呼吸管理センターの設置

・睡眠関連疾患を診療科横断・他職種連携で診療を進め、また検査体制を充実させるため「睡眠医療・呼吸管理センター」を2025年9月に設置。

●【3期目後半新規】附属病院における組織の整備

・コロナ禍で感染症学の重要性が広く認識され、人材育成の必要性が飛躍的に高まっていることから、2023年10月に医学部医学科に感染症内科学講座を設置するとともに、附属病院の感染制御内科を「感染症内科」に名称変更し、感染症センターを廃止。

・医療の質向上、医療安全管理、医療安全教育・研究を行うことを目的とした「医療の質・安全管理センター」を2023年11月に医療安全推進室を改組し設置。また、組織的な医療安全管理体制を構築するため教員を1名増員。

・がん患者への相談等に関する業務を強化することを目的として、中央診療施設に「がん相談支援センター」を2024年4月に設置し、がん患者への相談支援体制を充実

・従前から奈良県肝疾患診療連携拠点病院である本院に、県からの補助金を受けて、「奈良県肝疾患相談センター」として地域の肝疾患診療体制の確保を図るための会議の設置、市町村事業支援、地域への出前講座、奈良県と連携した研修会の開催等の事業を実施してきたが、2024年7月に中央診療施設「肝疾患相談センター」を設置。

・総合診療科及び整形外科で外来診療を行っていたリウマチ性疾患について、日々進歩する最新のリウマチ診療を奈良県民に提供するとともに、診療科横断的なリウマチ診療の強化や人材育成、研究力の向上に資するため、中央診療施設に「リウマチセンター」を2024年10月に再設置。

・総合画像診断センターにおける画像診断件数ならびに1件あたりの画像診断情報は増加し、また高度な専門知識を要する症例の増加や、夜間・緊急検査への読影要求、読影率のさらなる向上、全例に対し検査前画像診断管理の実施など、画像診断専門医の大幅な負担増に対応するため、総合画像センターの教員定数を3名増員し、医療の質の向上に寄与。

●附属病院における経営改善

【3期目後半の進展・結果】経営に関する定例会議や診療科・中央部門長への面談を定期的を実施し、現状把握と課題抽出を継続的に行い、組織横断的な対応を推進（主要指標 病床稼働率：2022年度 68.6%→2024年度 81.9%、手術件数：2022年度 7,686件→2024年度 8,793件、紹介率：2022年度 83.3%→2024年度 89.3%、逆紹介率：2022年度 84.6%→2024年度 91.8%など）

●医療費適正化への貢献

【3期目後半の進展・結果】後発医薬品の使用割合80%を維持（2022年度 80.0%→2024年度 84.6%）

●新型コロナウイルス感染症対応

【3期目後半の進展・結果】・2023年5月の第5類への移行後も県の要請に応じ、2023年度末まで患者受入病床を確保。

・「新型インフルエンザ等感染症、指定感染症又は新感染症に係る医療を提供する体制の確保に必要な措置に関する協定」「災害支援ナースの派遣に関する協定」（災害・新興感染症対応）を奈良県と2024年4月に締結。

4. 総合

●★MBT構想（医学による日本創生モデル）

以下の大部分は奈良医大MBT研究所（所長：細井裕司）とMBTコンソーシアム（理事長：細井裕司）の共同事業です。

●（特記1）MBTコンソーシアム会員企業 151社（2025.7.23現在）

・2025年7月現在、奈良医大の下に集まっているMBT会員企業が151社となった。会員企業の本社所在地は14都府県に分布しており、奈良44社、大阪41社、東京41社となっている。医科の単科大学に医療と関係のない企業も含めてこのように多数の企業がコンソーシアムを形成している例は世界的にも稀である。

●（特記2）難病克服キャンペーン

【3期目後半の進展・結果】・キャンペーンに対し9団体からの後援名義使用許可を得た。協賛企業・団体は42組織となり、広報活動を依頼

・難病克服支援「MBTみんなで守るいのちの映画祭」の開催

（第3回 2024年1月 よみうり大手町ホール ゲスト 吉永小百合氏、第4回 2025年1月 日経ホール ゲスト 渡辺謙氏、第5回 2026年1月 日経ホール 田中裕子氏予定）

・難病への理解促進のためのMBT映画祭受賞作品の上映

（2023年10月・2024年10月・2025年6月 けいはんなプラザメインホール、2025年3月 本学）

・難病克服支援WEBセミナー

（第5回 2023年9月、第6回 2024年3月、第7回 2024年8月、第8回 2025年3月）

●（特記3）経団連地域協創アクションプログラム

【3期目後半の進展・結果】・経団連の地域協創アクションプログラム10項目のうちの1つ（「医療・育児・介護・移動など健やかで快適な暮らしの基盤を協創する」）の取組主体者として活動を実施

・2025年2月 経団連企業やアクションプログラム参加の約60名が参加するWEB勉強会を開催。

●（特記4）「よい仕事おこしフェア実行委員会」（事務局：城南信用金庫）との連携協定

【3期目後半の進展・結果】・奈良医大およびMBTコンソーシアムと「よい仕事おこしフェア実行委員会」（事務局：城南信用金庫）が2023年2月27日に連携協定を締結。全国の信用金庫と連携し、医学の知識を基に社会貢献活動を展開

・2023年11月 「2023よい仕事おこしフェア」へ出展

・2024年12月 「2024よい仕事おこしフェア」へ出展

●（特記5）【3期目後半新規】スタートアップ・エコシステム共創プログラム

2024年1月、本学が共同申請していたスタートアップ・エコシステム共創プログラムに採択された。同プログラムは、大学等発スタートアップの創出に向けた取組を支援するもので、本学は京都大学を主幹機関とする「関西スタートアップアカデミア・コアリション（KSAC）」のメンバーとして参加。

・GAPファンダ採択課題

口腔外科学講座の柳生貴裕講師 「マッチングプラットフォームを活用した抜去歯牙などの医療廃棄物の効率的利活用」

血栓止血先端医学講座の辰巳公平准教授 「血友病A根治に向けた同種他家FVIII産生細胞による細胞治療法の確立」

●（特記6）【3期目後半新規】大阪・関西万博夢洲本会場出展

- ・2025年4月30日 大阪ヘルスケアパビリオンリボーン広場講演（細井、梅田研究教授）
- ・2025年6月10日～16日 大阪ヘルスケアパビリオンリボーンチャレンジ出展
- ・2025年7月28日～8月3日 関西パビリオン京都ブース
- ・2025年9月30日 大阪ヘルスケアパビリオンリボーン広場講演予定（細井、梅田研究教授）

（イベント等への出展）【3期目後半新規】

- ・2023年 9月 日経クロステックNEXT2023（東京国際フォーラム）
- ・2023年 9月 湘南アイパーク Membership Day 2023（湘南ヘルスイノベーションパーク）
- ・2023年10月 講演イベント「医学を基礎とするまちづくり（MBT）と産業創生」（湘南ヘルスイノベーションパーク）
- ・2023年10月 奈良県防災総合訓練（吉野運動公園）
- ・2023年11月 HANAZONO EXPO 2023（花園中央公園）
- ・2023年11月 第3回 Challenge 万博『いのち輝く未来社会』へ（三井住友銀行東館）
- ・2023年12月 イノベーションストリーム KANSAI 7.0（グランフロント大阪コングレコンベンションセンター）
- ・2024年 7月 げんきに暮らせる未来を創る健康まちづくり EXPO2024（グランフロント大阪）
- ・2024年10月 DX オープンイノベーションフォーラム 2024（グラングリーン大阪 JAMBASE）
- ・2024年10月 日経クロステック NEXT 東京 2024（東京国際フォーラム）
- ・2024年10月 第4回 Challenge 万博－大学発シーズ・スタートアップがつくる未来社会－（三井住友銀行本店東館）
- ・2024年10月 奈良県防災総合訓練（奈良市都祁生涯スポーツセンター）
- ・2024年11月 イノベーションストリーム KANSAI 8.0（グランフロント大阪コングレコンベンションセンター）
- ・2025年 6月 けいはんな万博2025 Well-Being Festival（けいはんなプラザ）

（包括連携の取り組み）【3期目後半新規】

- ・2024年 6月 Nakanoshima Qross 未来医療の産業化拠点と関西公立私立医科大学・医学部連合が連携
- ・2024年 8月 日本郵便（株）近畿支社 医学知識を基に地域の活性化と産業の振興を図る
- ・2024年11月 （株）モンベル 若者や高齢者の健康増進などの活動を行う
- ・2024年12月 UPDATE EARTH のスクールパートナー
イノベーション進展を狙いに「育成」「発掘」「成長」の機会を提供

（その他の活動） 【3期目後半新規】

- ・2023年12月 軟骨伝導の発見と実用化に貢献の功績により、日本オーディオ協会が細井理事長を「音の匠」に選定。
- ・2024年 3月 ならコープ健康大学でMBT講義を実施。
- ・2024年 3月 第1回モバイルモニタリング研究会を開催
モバイル関連機器、モニター、ネットワーク、データベースなどを用いた患者の安全に関わるテーマを中心としたモバイルモニタリング研究会（代表世話人：辰巳満俊 医療の質・安全管理センター センター長）を開催。
- ・2024年11月 MBT実証実験説明会を開催
電力データを活用した「地域の健康見守り」が、新たに北海道喜茂別町、長野県売木村、福井県おおい町、沖縄県南城市などで開始され住民向け説明会やセミナーを実施。
- ・2024年12月・2025年1月 政策アクション会議でMBT産業創生活動を紹介
- ・2025年 2月 「AI北海道会議」設置記念シンポジウムでMBT講演を実施
- ・2025年 2月 南十勝夢街道プロジェクト推進会議でMBT講演を実施

●その他

●未来への飛躍基金：将来を担う優れた人材育成を目的とした修学環境の向上、社会貢献及び国際交流推進のため各種施策に活用

- 【3期目後半の進展・結果】・基金創設後10年間で総額 約14.2億円（2025年3月末現在）の寄附を獲得
- ・若手研究者への英語論文校正費用の助成制度を充実するとともに、海外留学助成制度、APC助成制度を創設。また、講義室の机・椅子の更新、研究用備品の整備など教育・研究環境の充実にも活用。
 - ・基金に多額のご寄附をいただいた、紺綬褒章の授与者・授与予定者が9名となった。

●学内広報の活性化

- 【3期目後半の進展・結果】・学報における理事長・学長からのメッセージ：vol.86～vol.93の8回
- ・奈良医大キャンパスだより：第14号～第15号の2回
 - ・MBTニュースレター：第227号～第358号の131回、MBTジャーナル：vol.13～vol.16の4回

●積極的な情報発信、広報の充実

- 【3期目後半の進展・結果】マスメディアの活用
- ・記者会見、新聞・雑誌・テレビ等マスコミ取材、テレビ出演、記事掲載など積極的にマスメディアを活用し、情報発信
 - ・大学全体の期間中の報道等件数：181件、うち理事長・学長が対象となった報道等件数：35件
 - ・法人の取組（MBT、MBT映画祭）について、公式SNS（Facebook、X（旧Twitter）、YouTube）を開設し、情報発信を充実
 - ・MBT関連の広報は上記に記載

●障害者雇用の推進

- 【3期目後半の進展・結果】・2024年11月 職業リハビリテーション研究・実践発表会（東京ビッグサイト）でベンチャー認定企業の（株）MBTジョブレオーネ 岡山弘美氏が特別講演。
- ・2024年度より理事長特任として、契約更新回数（最大4回）の上限を撤廃し、継続勤務を可能とした。

● 畝傍山キャンパスの開校

【3期目後半の進展・結果】・畝傍山キャンパスの工事については、2024年11月に竣工。2025年2月に県知事をはじめとした県関係者を招き、内覧会を実施。

・2025年4月1日にオープン。4月7日に新キャンパスとしてはじめての入学式を開催。

● 新A棟整備

【3期目後半の進展・結果】・新A棟整備について、知事と法人役員との意見交換会を実施し、2024年11月に整備規模、事業費、整備内容などについて、県と合意。新駅開業に合わせて2031年度中の竣工を目指す。

● 開学80周年記念事業

【3期目後半の進展・結果】・2025年5月24日に畝傍山キャンパスにおいて、開学80周年記念及び畝傍山キャンパス記念式典を開催。

・式典には、国、県、県内自治体、関係大学・医療機関・企業の皆様や、本学の関係者など約210名の方の参加。テーマ「奈良から世界へ」と題した記念講演を実施。ミシガン大学医学部からBrian D. Athey教授を、奈良先端科学技術大学院大学から塩崎一裕学長を招聘し、それぞれご講演いただいた。

・2025年度を80周年記念YEARとして、ロゴマークを作成。記念式典を皮切りに様々な記念事業を展開。

● 【3期目後半新規】学歌の制定

・開学80周年と畝傍山キャンパス開設を契機に、大学の理念を象徴する学歌を正式に制定する運びとなり、記念事業実行委員会のもと「学歌部会」を設置し制作を行った。

・2025年4月に奈良県橿原文化会館で《1000人の大合唱レコーディング》～奈良から響け、未来への歌～を開催

● 【3期目後半新規】第4期中期計画の策定

・2025年度からはじまる第4期中期計画について、中期計画委員会で議論を行い、計画を策定。

● 【3期目後半新規】特別休暇等の見直し

・職員の負傷又は疾病による休職及び傷病休暇の期間の見直しを図るとともに、同一労働同一賃金の観点から、一部の特別休暇等について、正規職員と非正規職員との間の待遇差の解消を実施。

● 【3期目後半新規】育児・介護休業法の改正にかかる就業規則等の改正

・男女とも仕事と育児・介護を両立できるように、育児期の柔軟な働き方を実現するため、2025年4月1日付けで育児・介護休業法が改正されることに伴い、子の看護休暇の取得事由の拡大など就業規則等の改正を実施。

● 【3期目後半新規】外来ベースアップ・入院ベースアップ評価料の施設基準取得

・2024年度診療報酬改定で新設された賃上げを要件とする施設基準について、賃上げを行うことを前提に、2024年6月届出。

● 【3期目後半新規】給与改定

・人事委員会勧告に準じ、基本給、勤勉手当、各種手当等を改定。